

視察研修先	県立新庄病院	氏名	渡邊賢一
視察研修項目	改築整備に至るまでの経過及び改築整備の内容について		
感想・所見など			
<p>1. はじめに</p> <p>この度は、大変ご多忙のところ、行政視察で、県立新庄病院の新病院建設が行われている状況をお聞きする機会をいただきました。八戸院長、竹田県立病院課運営企画主幹はじめ、職員の方々には、衷心より御礼申し上げますとともに、大変興味深く、また、貴重な研修の機会をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。特に、私が以前より、お世話になっている病院事業局伊藤事務局長からは、大変なご配慮を賜り、重ねてお礼申し上げます。</p> <p>さて、私ども西村山地域の入院患者は5～6割が山形市内の基幹病院に入院。県立河北病院と市立病院は、類似の診療機能を有し、朝日町立・西川町立の2病院も含め、回復期機能も分散しています。入院患者数は横ばいですが、今後は、外来患者数が大幅に減る見通し、施設老朽化と医療従事者確保などの課題を踏まえ、11月2日の検討会議において、県と寒河江市が新法人をつくり、急性期と回復期の機能を持つ2次救急の新たな病院を運営し、町立病院を持つ西川町と朝日町は法人に参加するか連携し、町立病院を持たない河北町と大江町も新法人に参加できるとする具体的な検討案が示されました。県立河北病院と市立病院の統合を軸に、地域の体制検討を本市の重要事業として、強く要望してきた佐藤市長の思いが通じたものです。</p> <p>2. 概要等</p> <p>(1)八戸院長ご挨拶</p> <p>新病院は、2023年10月1日開院予定で、総合サポートセンターや救命救急センターを備え、地域住民の皆様が利用しやすく、かつ、安心して安全な医療を提供できる新病院となるよう、職員一同が知恵を出し合い、検討を重ねてまいりました。我々の想いは「実施設計」という形にまとめ、各階の図面を詳細に確認する作業を経て、建築工事が始まりました。新病院の建築工事自体は、来年3月完了予定ですが、その後、医療機器等の搬入を行い、皆様に、安心安全な医療を提供できる体制を整えてまいります。新病院開院に向けて、着実に取り組んでまいりますので、今後とも御支援くださるようお願いいたします。</p> <p>(2)新病院建設に至る経過</p> <p>現病院は、1975年建築、1981年増築され、老朽化が激しくなっています。2011年に新病院建設に向けた調査報告書、2012年最上地域からの要望書、2015年検討委員会設置、2016年基本構想策定、2017年基本計画案作成、2018年計画決定という、長期間にわたる地域を挙げての新病院建設の大プロジェクトに、吉村知事はじめ、県の県立病院事業局が、一丸となって進めてこられました。11年に及ぶ思いの結晶です。</p> <p>(3)新病院の機能等</p> <p>盛り土2m、駐車場850台分、屋根付き駐車場20台分、特に、最上二次医療圏には、県内で唯一、救命救急センターが設置されていないため、新病院では、待望の「地域救命救急センター」及び「地上ヘリポート」を整備し、救急医療機能を強化します。</p>			

また、新庄市夜間休日診療所の機能を新病院に移転し、救急医療の効果的かつ、効率的な運用を目指します。

#### (4)モデル病棟見学

新しくなる入院病棟の快適なモデルルームを見学させていただき、イメージがさらに膨らみました。こだわりの壁収納やバックライト効果など、懇切丁寧にご説明いただきました。

### 3. 所感

私が所属している会派で3年前、香川県高松市を行政視察した際の記録をもとに、今回の病院統合再編問題を考えてみたいと思います。

高松市内3公立病院を2つに統合・再編した理由と背景について、高松市立みんなの病院は、高松市民病院の老朽化と国の医療制度改革を背景に、平成17年に、「高松市民病院あり方検討懇談会」を設置し、平成21年には、「高松市新病院基本構想」が策定され、足掛け9年の年月を経て、高松市民病院と香川診療所を統合し、平成30年9月1日、新たに、仏生山の地に新築移転を行い、待望の開院を迎えることとなりました。また、統合移転に伴い、一般公募により、「高松市立みんなの病院」と名称を変更し、新たにスタートすることとなりました。病院の場所は、高松医療圏の中心に位置し、ことでの駅の駅に近接し、アクセスも良く、本市がまちづくりの目標としている、病院を核としたコンパクトエコシティ計画に沿ったものとなっています。

また、統合・再編による患者の通院距離等への影響について、場所も建物も名称も変わりましたが、提供する医療に大きな変わりはなく、急性期医療に加え、さらに一層、地域医療の確立に貢献しています。高松市立みんなの病院の診療機能は、従来からの救急医療や高度ながん医療、小児・周産期医療、感染症医療、精神科医療、人間ドックや疾病予防、へき地医療等に加え、歯科口腔外科を新設し、高松市民が、いつでも安心して暮らせるよう多岐にわたり貢献しています。また、がん医療については、香川県内4台目となるPET-CTのほか、最新の放射線治療装置や高性能のMRIを導入し、診断の精度の向上や治療において、今まで以上に、高度な医療にも注力しています。また、緩和ケア病床を活用するなど、適切な緩和ケアを提供しています。今回新たに、救急科及び救急病棟を設置し、「南海トラフ巨大地震」をはじめ、様々な災害に対応できるよう、屋上にはヘリポートを整備、広域災害時においても、DMATチームをいつでも派遣できるよう、準備が整えられています。感染症に対しては、第二種感染症医療機関として、感染症病床6床を設置しています。さらに、平成26年12月に、『地域医療支援病院』の承認を受け、一層、地域連携を強化しています。地域包括ケアの後方支援機能を強化するため、地域包括ケアシステムの構築に向けて、急性期を脱した患者や、自宅や介護施設などからの緊急患者に対し、在宅復帰支援のための「地域包括ケア病棟」をすでに設置、入退院支援や在宅療養支援のほか、医療福祉相談などを一元的に提供できるよう「地域医療・患者支援センター」を整備しました。このような施設整備によって、機能強化が図られたこともあり、高松市南部地域を中心に、医療を提供する状況となっていました。患者の通院については、「ことでん」による利便性が確保されている一方で、郊外から車による通院が多いため、駐車場整備を優先させたことが良かったとのことでした。現在の経営状況について、毎年1億5千万の赤字経営。開院が遅れたため、3年間で28億円の長期借り入れが不可欠となる。患者数が伸びているが、医師が37人まで減少し、医師確保が課題。さらに、経営改善策として職員給与の独自カットを行い、

経営に協力している。公立病院経営では、いくら努力しても黒字にはならない。診療報酬制度の構造的な問題がある限り、厳しい経営が続くだろうとのことでした。

#### 4. むすびに

P E T－C Tのほか、最新の放射線治療装置や高性能のMR Iを導入し、診断の精度の向上や治療において、今まで以上に、高度な医療にも対応できることが必要です。また、河北病院にある緩和ケア病床を充実していくことも必要です。新たに、救急科及び救急病棟を設置し、「直下型地震」をはじめ、様々な災害に対応できるよう、屋上にはヘリポートを整備、広域災害時においても、DMA Tチームをいつでも派遣できるようにすべきです。感染症に対しては、第二種感染症医療機関として、河北病院に感染症病床6床を設置していますが、今般のコロナ感染の状況を鑑み、さらに充実させるべきです。『地域医療支援病院』の承認を受け、一層、地域連携を強化して、地域包括ケアの後方支援機能を強化するため、地域包括ケアシステムの構築に向けて、急性期を脱した患者や自宅や介護施設などからの緊急患者に対し、在宅復帰支援のための「地域包括ケア病棟」を充実させる、入退院支援や在宅療養支援のほか、医療福祉相談などを一元的に提供できるよう「地域医療・患者支援センター」を整備すべきです。このような施設整備によって、統合病院の機能強化が図り、西村山地域の医療提供体制を確立していくべきです。

また、立地条件になりますが、患者の通院、バス路線や国道・県道のバイパスなど、利便性の確保の一方で、駐車場整備を優先させていること、除雪体制による排雪場所の確保など検討すべき課題は山積しています。

今後、地域住民に喜ばれる、しかも、持続可能な地域医療を確立していくため、関係者と地域住民が力を合わせ、新病院を建設していかなければなりません。私たちの使命も大きくなってまいりますが、そのためにも、なお一層のご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

様式第 2 号

視察研修先	米沢市立病院	氏 名	渡 邊 賢 一
視察研修項目	建替整備に至るまでの経過及び建替整備の内容について		
感想・所見など			
<p>1. はじめに</p> <p>この度は、大変ご多忙のところ、オンライン行政視察で、全国初となる官民連携による新病院建設が行われている米沢市立病院と三友堂病院の状況をお聞きする機会をいただきました。大変興味深く、また、貴重な研修の機会をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。</p> <p>現在、西村山地域の入院患者は、5～6割が山形市内の基幹病院に入院。県立河北病院と寒河江市立病院は、類似の診療機能を有し、朝日町立・西川町立の2病院も含め、回復期機能も分散しています。入院患者数は横ばいですが、今後は、外来患者数が、大幅に減る見通し、施設老朽化と医療従事者確保などの課題を踏まえ、11月2日の検討会議において、平山副知事からは、県と寒河江市が新法人をつくり、急性期と回復期の機能を持つ2次救急の新たな病院を運営し、町立病院を持つ西川町と朝日町は、法人に参加するか連携し、町立病院を持たない河北町と大江町も新法人に参加できるとする具体的な検討案が示されました。県立河北病院と市立病院の統合を軸に、地域の体制検討を本市の重要事業として、強く要望してきた佐藤市長の思いが通じたものです。</p> <p>2. 概要等</p> <p>今回建設される新病院は、来年11月の開院に向けて準備が進んでいます。運営主体となる地域医療連携推進法人を設立し、公立と民間の2病院、それぞれが独立性を保った上で、機能分担を行い、救急、外来、手術、検査など、連携していくこととなります。三友堂病院では、手術を行わず、回復期の患者のみを受け入れることとなります。</p> <p>また、専門性が高いので、発注方式も検討を行いました。さらに、患者の転院基準、報酬の支払先、職員採用、病院間の人事交流（出向）などが調整されているそうです。</p> <p>今後は、周辺の他の医療機関と新病院の連携、例えば、日本海総合病院のような広域包括ケア連携を他の医療機関にも徐々に広げていく予定とのことでした。</p> <p>事業継続のために、医師不足による機能低下にならないよう、勤務医の働きやすい環境づくりや医療スタッフ全体の人材確保など、置賜地域に限らず全国的な状況をどう克服していくか、私たちの置かれている状況でもあります。</p> <p>3. 所感</p> <p>寒河江市立病院は1973（昭和48）年に完成し、現在の診療科は内科や整形外科など6つ、常勤医は9人、市民を中心に外来、入院の機能を担っています。河北町にある県立河北病院は1981（同56）年に完成し、内科や外科など16診療科、常勤医は20人です。新型コロナウイルス感染症が拡大する前の2019年12月、市議会における一般質問で、病院再編について、佐藤市長及び久保田事業管理者にご質問させていただきました。（議事録より一部抜粋）</p> <p>○久保田洋子病院事業管理者</p>			

災害時の場合と伝染病蔓延時等の場合に分けてお答えさせていただきます。本市が自然災害等に見舞われた場合、寒河江市地域防災計画に基づき、市は災害対策本部を設置し対応することになります。当院においては、現に入院されている患者さんの安全を確保することが第一と考えております。その上で、寒河江市地域防災計画にある医療救護体制整備計画及び医療救護計画に基づいて市や県の災害対策本部との連絡調整、寒河江市西村山郡医師会が編成する医療救護班並びにDMA Tの派遣医療従事者や各医療機関との連携による災害時のトリアージや患者の受け入れ等災害時の医療提供に努めることとなります。これらのことは2011年の東日本大震災時においても経験しているところであります。次に、伝染病蔓延時等の医療体制についてであります。西村山郡においては県立河北病院が第二種感染症医療機関として感染症病床を6床設置しております。当院においては、医療機器を含めた医療環境の現状から、全ての感染症を受け入れることは困難な状況にあります。しかしながら、当院では災害時と同様に入院されている患者さんの安全を確保することが第一と考えており、院内での蔓延の防止策をできる限り講じるとともに、感染症の分類に応じて感染症指定医療機関への入院対応を行うとともに、保健所の指示のもとでできる範囲内の医療を実施してまいりたいと考えております。災害や感染症蔓延のような緊急時にこそ、地域医療機関との連携による効率的施設利用、人材利用が住民の命を守る鍵となりますので、地域防災計画を遵守して、病院の役割を完全に果たしていく所存でございます。

○佐藤洋樹市長

自治体病院の役割というのは、地域において行政や医療機関、介護施設等と連携をしながら必要な医療を公平、公正に提供して、住民の生活と健康を守り、地域の健全な発展に貢献することです。また、地域住民の健康維持、増進を図りながら、住民ニーズに対応した適切な医療を提供する身近な医療機関であるとともに、休日夜間の診療や救急医療等の政策的医療も担うなど、地域医療に大きな役割を果たしている病院でございます。

御質問にありました県立河北病院のことに関しましては、既に県に対しまして寒河江市も含め1市4町歩調を合わせて要望書を提出しているのは御案内のとおりであります。寒河江市でも多くの皆さんが利用している大変重要な病院であります。充実が必要だというふうに認識をしております。一方、寒河江市には寒河江市立病院があるわけでありまして、市民の健康、医療の最後のとりでであります。これからも一層その役割を果たしていかなければならないと思っております。そういった中で、今後西村山の医療をどう確保して、西村山8万住民の命と健康をどう守っていくのかということは大変大きな課題だと認識をしております。今後開催される県の地域医療構想の会議において、西村山地域で協議、調整を進められていくということになっているわけでありまして、県や保健所などからの指導を仰ぎながら、西村山郡医師会の御意見なども拝聴して、将来的に4つの公立病院を含めてこの地域医療体制をどう進めていくかということについて、西村山の中核としてその役割を果たしていかなければならないと思っております。

○渡邊賢一議員

災害時、これは全く想定外の状況が出てくるわけでありまして、当然トリアージとか、そういったものを進めていくわけですが、これからいつ起こってくるかわからない状況について私たちは心配しているわけでありまして。医療機関の位置づけについても、機能強化を含めてお願いしたいと思います。寒河江西村山地域の特殊性について、去る11月5日に西村山

地域の議員研修会があり、山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座教授の村上先生より西村山地域の医療提供体制と題して御講演を拝聴させていただきました。先生からは、現在の病床数408床を200床程度に半減させるべきという、本当に驚くべき数字が出されたと思っています。この数字上はそうあっても、本当にどうなのかという到底納得がいかない状況がございます。河北町では、「河北病院を支援する会」いう今まであった組織をバージョンアップさせて、「地域医療と県立河北病院を考える会 事務局が河北町健康福祉課 会長河北町森谷俊雄町長」11月28日に設立されたとお聞きしています。こうした動きにおくれることなく市立病院の今後の方向性を示していただき、こうした縮小、再編、統合などの問題に抗していくべきではないかと思えます。

#### 4. むすびに

私が所属している会派で3年前、香川県観音寺市を行政視察した際の記録をもとに、今回の病院統合再編問題を考えてみたいと思います。

当時の記録ですが、独立行政法人国立病院機構「四国こどもとおとなの医療センター」は、主として成人医療を提供していた善通寺病院と、小児・成育医療を提供していた香川小児病院を統合し、新たに発足した病院です。その名前が表す通り、‘誕生’から‘看取り’まで、そして、重症心身障がいのある方にも、あらゆる世代の患者さんに、良質で安全な医療を提供し、地域に貢献することを理念としています。横田一郎院長の言葉によると、「はじめて当院を訪れた方は、当院の外壁に施されたカラフルなアート（クスノキのこどもと親の木）に、少し驚かれるかもしれません。当院は開院当初より、安心・安全で高度な医療を提供すると同時に、患者さんに癒しや安らぎ、喜びを感じていただけるような環境を提供し、患者さんの回復力を高めていきたいという願いから、ホスピタルアートを推進すると共に、ボランティアの方々のご協力による様々な活動を継続しています。」この理念を持ち続け、さらに、高める取り組みが行われていました。ホスピタルアートディレクター 森合音さんの説明を受け、その取り組みについての詳細をお聞きすることができました。「一年を通じて、四季の変化を敏感に感じ取り、古来より詩歌や掛け軸、生け花など、その生活の随所に、「自然の美」を取り入れながら生活してきた日本人にとって、常に、自然は身近にあり、心に潤いを与えてくれるものでした。病院での辛い治療中にあっても、人間は、自然の一部であるということをお忘れず、自然の持つエネルギーに触れて欲しい。その思いから、院内に様々な形で、「自然のかげら」を取り込みたいと考えました。善通寺という「場」の力を常に意識しながら、母なる五つの要素（地・水・火・風・空）をアートで表現しました。（隣接する総本山善通寺の五重塔に由来する）そのコンセプトとして、病と闘うために、日々、細分化され、進歩し続ける力強く父性的な医療という営み。その中であって、病院におけるアートの役割とは、時に闘うことを離れ、そこで起こるすべての営みを根底からありのままに受け止めるという、もう一つの母性的な視点（まなざし）として存在することだと考えています。」つまり、アート活動の目的は、院内に存在するすべてのアートは、患者様の快復と幸せを祈る医療スタッフの「思い」の結晶です。目に見えない「思い」をどのようにかたちにしていくか。「現場」の声に耳を澄まし、医療スタッフ、作家、さまざまな分野の専門家と話し合い、アートを媒体にして、院内により豊かな医療空間を創出してゆくことを目的としています。公立病院の再編統合において、全国でも有名な独立行政法人国立病院機構「四国こどもとおとなの医療センター」の格調高いアートについて、とても興味深い

視察となりました。

今後、病院建設の際の参考になればと思い、3年前の視察記録から引用させていただきました。今回のオンライン視察につきまして、米沢市議会議長相田様をはじめ関係各位に心から感謝を申しあげ、私の報告といたします。ありがとうございました。